

家族のチカラ

さる10月3日に、今年のノーベル医学生理学賞の受賞者が発表されました。そして、大隅良典さんが、細胞が不要なたんぱく質などを分解する「オートファジー」の解明についての研究で受賞されたことは、皆さんがご存知の通りです。

さて、この大隅さんは、子どもの頃どんな少年だったのでしょうか。実は、幼い頃より兄の和雄さんからファラデーの「ロウソクの科学」など自然科学に関する本をプレゼントされ、熱心にそれらの本を読むうちに自然科学の世界に興味を持つようになったそうです。そして、音楽や運動が苦手だった大隅さんにとって「ノーベル賞」は少年時代の夢となりました。大人になり、周りの科学者が全く注目していなかったことに目を向け、研究を続けられたことが今回の受賞につながったのだそうです。きっと、本当に自分が興味をもったことに対して、研究する価値があると信じて研究を進めてこられたのでしょう。そして、その初めの1歩を踏み出すきっかけを作られたのは、お兄さんだったのではないのでしょうか。

また、大村智さんは、昨年度「寄生虫による感染症の治療法に関する発見」で、同じノーベル医学生理学賞を受賞されました。この研究をもとに作られた薬を中南米やアフリカで約2億人余りの人に投与することにより、失明につながるかもしれない感染症の撲滅に貢献されました。他にも、世界中のたくさんの人々が大村さんの研究によって救われています。この大村さんは、幼い頃に、おばあさんから「世のため人のために働きなさい」と言われ、人としてどう生きるかを示されたそうです。

今月の20日は、「家族の日」です。今回の受賞者の話からも子どもが育つ家庭のチカラ、家族のチカラがいかに大きいものであるかがわかります。今年の4月に6年生を対象に実施いたしました全国学力学習状況調査の児童質問紙に「人の役に立つ人間になりたいと思いますか？」という問いがありました。本校は、8割以上の子どもたちが「当てはまる」と答えており、全国や京都府の結果より約10ポイントも高くなっています。このような気持ちが子どもたちに育っているのは、「家族のチカラ」によるところが大きいととらえています。これからも、子どもたちが家庭での役割をしっかりと果たし、学校・家庭・地域がチカラを合わせて、「心やさしく 心身ともにたくましい子どもたち」に育つよう取組を進めていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。